

尼崎市総合計画審議会 第5回総会 議事録

日時	令和4年3月23日(水) 18:30~
開催手法	WEB会議
出席委員	青田委員、稲垣委員、梅谷委員、加藤委員、川中委員、武本委員、花田委員、久委員、堀田委員、室崎委員、八木委員、川島委員、小坂委員、小森委員、堂園委員、松原委員、村田委員、勇委員、中西委員、仁保委員、畠中委員、原田委員、古川委員
欠席委員	瀧川委員
事務局	塚本総合政策局長、中川政策部長、田中総合計画担当課長、総合計画担当職員

1. 開会

●資料の確認

●議事録署名委員の指名

武本委員、小坂委員

2. パブリックコメントの意見を踏まえた第6次尼崎市総合計画(案)について

(事務局)

<資料説明>

(会長)

これから議論をしていただき、次回は今回の意見を踏まえて答申案として皆さんに見ていただくということになります。そういう意味では事務局より説明があったところ以外にも、気になるところがありましたらご自由にご指摘やご提案なりをいただければと思っております。

(委員)

今指数の説明があり、算出の仕方は色々専門的なものがあると思いますが、例えば市民参画指数の基準値が40.6で目標値が49.8になっています。市民目線で見ると例えばこれが50だと2人に1人は参画できているんだということが分かるんですが、目標値はこの微妙な数でいかないのかなと疑問に思いました。

(事務局)

市民参画指数の考え方ですが、現計画にも市民参画指数を総合指標として設定しており、その時に設定した目標値の算出方法を参考に今回も目標値を設定しておりますので、半端な数値になっていますが、一定考え方に基づいた設定となっており、ご理解いただきたいと考えております。

(事務局)

少し補足させていただきますと、目標値の考え方については大きく二つございまして、これまでの実績等から緻密に積み上げた形で目標値を設定しているものについては、今ご指摘があったような細かい端数の数値が設定されているものがあります。理念的に数値を高めていくような目標値につ

いては丸まったような数字となっており、大きくはそういう違いがあるのですが、委員のご指摘があった指標につきましては過去からの実績を積み上げた形で設定しておりますので端数が生じた細かい数値になっているということでございます。

(委員)

これは説明があったほうがわかりやすいと思いました。

(委員)

現在の計画案は、もうデザイナーが入った後のものでしょうか。

(事務局)

まだ入っていない状況でございます。

(委員)

デザインを考える際に、もう少しメリハリをつけ、ざっと見た時に心に響くといえますか、そういう要素というのがいると思います。

(委員)

全体についてはよくまとまってきているなという感想ですが、まちづくり構想で、今更かもしれないですけど、表紙があって、「1.社会潮流」、「2.本市の状況」、「3.ありたいまちとまちづくりの進め方」とあるんですけど、先程委員もおっしゃったように皆さんの手に渡っても全部を見る人はいないと思います。前から順番に見ていった時に、固い「社会潮流」とか「本市の状況」というのを先に出してしまうと、読む気をなくす感じがしていて、折角こういう場で検討して事務局もすごく綺麗にわかりやすい形でまとめてもらった「ありたいまちとまちづくりの進め方」や「まちづくりの基本的視点」などの、パッと見て全体像がわかるような、目玉みたいなページをなるべく前の方に持ってこられないかなというのは一つの意見です。結論を先に提示して、そこに至った根拠として「社会的な状況」とか「本市の状況」というような順番にできないのかなと思います。“ひと咲き まち咲き あまがさき”に辿り着くまでに「(3)行財政運営の状況」を読まされると、そこまでとどり着けないのではないかという懸念があり、折角の一番大事なところはやはり一番前に持ってきて、全員にここは見てほしいというのが長い時間関わってきた者としては単純な願いというか希望です。

(会長)

確かにここが一つの集約の姿というところでいうと、最初に来てもいいような気がするのですが事務局はどのようにお考えでしょうか。

(事務局)

そこは庁内でもかなり議論が行われ、今の構成に至っております。当然わかりやすさでいうと、最初に一番見せたい部分があるというのは当然ながら一つの案として持っていました、「社会潮流」があって、「本市の状況」がこうある。だからこそこういうまちを目指していこうという見せ方にこだわったところ。また、市民の皆様と共有していくために、計画の冊子とは別に周知用のツールとして、読本のようなものを作っていきますので、その際には最大限目立つような形で作っていこうとは

思っております。計画についてはどちらも正解ではあると思っておりますが、今申し上げた形で「社会潮流」や世の中の流れがあって現状があってこういうまちを目指していくという流れにこだわったというところでご理解をいただきたいと思っております。

(委員)

その流れはすごく理解できるんですが、かなり日本文学的な考え方というか、計画を読んでいく中で、結論を先に言えではないですけど、「こういうまちでありたいと思いますので皆さん一緒にどうですか」と、まず示す必要があると思います。このページ自体を前にずらすというのは流れが難しいのであれば「ありたいまち」のキーワード“ひと咲き まち咲き あまがさき”と、「みなぎるつながる」とか、それぞれのキーワードだけを簡単なイラストにして、表紙にうまく綺麗にデザインして、これはなんだらうとまず興味を引くような部分を持ってこられないかなと思います。例えばデザイナーさんの力を借りることになるかなと思いますが、もちろん読本を作るにしても、この中途半端な位置に埋もれてしまうのはすごくもったいないと思います。流れはわかるんですが、見てほしいところではあるかなというところで、何かできることがあればお願いしたいと思います。

(会長)

市民の皆さんに理解してもらおう上で重要なご指摘だと思うんですけど、これはこれとして置いておいて、委員ご指摘のような編集の仕方もあるでしょうし、例えばこれだけを圧縮して、最初に持つてくるといったこともできるかと思えます。どちらにしても編集していくなかで、ご指摘も踏まえながら事務局に検討いただければと思います。

(委員)

今のご指摘ですが、計画を作った後に見開きでパンフレットみたいなものをお作りになるんじゃないかなと思います。会長がおっしゃったように最初に概要版を持ってきて、もっとキャッチーな目をひく可愛いらしい感じにされるといいかなと思いました。

また、「施策の進捗状況をはかる代表指標」について、P43「施策 2 人権尊重・多文化共生」の『人権講座受講前よりも「人権への関心がさらに高まった」と回答した参加者の割合』は、人権の意識の高まりを示すというよりは、講座が有効であったかどうかの指標になっていないかと少し気になったところです。もう一つが P49「施策 5 地域福祉」の代表指標『支援において「スムーズに連携できている」と回答した支援関係者等の割合』は民生児童委員さんに聞いている。つまり支援をする側の方にお聞きしていますが、支援を受けている人の意識というのを何らかの形でお聞きできないのかなと思ったところです。

(事務局)

「施策 2 人権尊重・多文化共生」で、委員ご指摘の通り『人権講座受講前よりも「人権への関心がさらに高まった」と回答した参加者の割合』と設定をしております、この代表指標につきましては、「施策目標」を達成するための進捗状況を測ることを考えており、『「日々のくらしのなかで、自分の居場所があり、他者に認められている」と感じている市民の割合』という大きい視点を指標に設定しています。『人権講座受講前よりも「人権への関心がさらに高まった」と回答した参加者の割合』については、その中で市としての役割として、人権意識を上げていくために人権講座を開催させていただくというところがあります。その中で参加者に意識が高まったと感じていただくことが重要である

と考えており、人権の審議会の中でも指標を確認いただくなかで設定させていただいております。

「施策 5 地域福祉」の指標ですが、『支援において「スムーズに連携できている」と回答した支援関係者等の割合』というところで、地域の課題解決に向けて様々な支援機関の連携がこれからますます重要になってくるという視点で、重層的支援というのがこれから重要になってきます。他の機関とつながっていくときに、スムーズにつなげるようにできれば連携が進んでいくのではないかとというところで、「その他の機関につなぐときに困ったことが無い」という事を捉え、スムーズに連携できているという考え方をしている指標になります。また、ここは代表指標ですので、その他必要に応じて毎年実施させていただく施策評価で必要な指標についても補足はさせていただきますし、その中でどういった指標を設定していくのかを検討していくということもあると考えております。

(委員)

一つ目ですが、講座を受けた方に聞いているということが引っかかっているところで、その割合が高まるという事を代表指標にしているのかなと感じました。

(会長)

この辺りはなかなか難しいところで、事務局のとしてもかなり検討した結果だと思いますが、委員のご指摘もありますので、また検討事項ということでお願いしたいと思っております。

(委員)

先ほどの委員のご指摘がありました、P49「施策 5 地域福祉」についてですが、実は本日地域福祉計画を答申いたしました、先ほどの事務局の説明にあった通り、次期地域福祉計画では一つの目玉として、国が進めています「重層的支援体制整備事業」を盛り込んでいます。本事業は県下では尼崎を含めて4自治体で来年度から始まりますし、移行事業ということで6つの自治体で本格的に都市間競争が始まります。「重層的支援体制整備事業」というのは、いかに部局間の連携をするかだと思います。特に尼崎で言いますと、地域課それから福祉課さらには社会福祉協議会やNPOそれらとどのように連携できているかという事です。そういう意味では市民が一番近いところにいらっしゃる民生委員さんをはじめ関係者の皆さんがどのように受け止めていらっしゃるかという事を指標にしようとしたところです。

(委員)

今回拝見させていただいて、すごく素敵なものが出来上がったなと思います。デザイナーさんがまだ入っていないという事でしたが、デザイナーさんが入ったのかと思うくらい凄く良くできていると思っております。少し気になることがありまして、著作権と肖像権の問題です。多分しっかりクリアされていると思いますが、例えばP32の写真を見るとお子さんが凄く大写して顔が映っておりますが、こうした計画に載ってしまうと色々な方が拝見します。計画はむしろたくさんの方に見てもらいたいものだと思うので、お子さんの親御さんなりがこの写真を掲載することに承諾されているのかということが少し気になりました。この写真の問題は、例えば次ページの写真はマスクをして、顔が半分隠れていたりするので良いのですが、P32のお子さんの写真は割と顔がはっきり写っていて、しかもお子さんの写真ということでセンシティブな問題もあるかと思っております。最近はSNSでも子どもさんの写真は載せないようにしているというようなところもあり、それは肖像権の問題です。また、掲載している写真などをどこから取ってきているのであれば、それが著作権の問題をクリアしているのかとい

うのが気になりました。あとは写真以外の図面とかは事務局の方が独自に作られている図面とかだ
と思うので、これは著作権については問題にしなくていいと思いますが、写真の点だけ確認いただ
ければと思います。

(事務局)

委員ご指摘の権利関係につきましては、事務局としても確認してから使用させていただいたとこ
ろですが、改めて確認して進めて参ります。

(委員)

第6次尼崎市総合計画(案)のP44、45「施策3 学校教育」の「施策目標」が「知識や技術を活用
して解決する力」となっていますが、これは何を解決するのかというところが見えにくいので、「課題
解決」といったように「課題」という言葉を入れた方が良いのかなと思いました。また、P45の「施策の
進捗状況を測る代表指標」のところで、前回の総会の時にも意見があったと思いますが、全国学力
テストの平均正答率の全国比較がどうであるかという事ですが、他の自治体を見ているとこの指標
が入っているので、ここは逃さない方が良く申ししたのですが、令和9年でも全国平均以上でいい
のかどうかはやや疑問が残ります。低いという意味合いですが、全国平均が一つの指標にはなっ
てくるんですが、小学校6年生や中学校3年生がここに書かれている基準値を見ると、令和9年ま
ではクリアするのではないかなと思っています。結論的にはこれでいいと思っているのですが、もう
少し高い値でも良いのかなと思ったところです。

(事務局)

まず1点目の「施策目標」に関しては、分野別マスタープランの「尼崎市教育振興基本計画」から
抜粋して設定しているものです。委員ご指摘の通り何を解決するのかという部分が明示できていな
い部分がありますので、こちらは教育委員会と調整して変更するかどうかも含めて検討させていた
だきたいと思います。2点目の指標につきましては、全国平均以上とすることについてもかなり庁内
においても議論して設定させていただきました。先ほど申し上げましたように施策評価で、違う指標
も追っていくということを説明させていただきましたが、施策評価の中で学力の低い層の底上げのよ
うな視点についても検討していきたいと思っておりますので、全国平均とセットで進捗を見ていき
たいと考えております。

(委員)

P12の「1. 社会潮流」について、先ほど委員からご指摘があった点は私もそう思います。先ほど
事務局から説明があった、「このような論法でいきます」という事をどこかで書くと、なぜ「社会潮流」
から始まるのか、というのがもう少しわかりやすいのではないかと思います。

また、改めて(1)から(7)まで見まして、文章量に差があると感じました。例えば(1)(2)(5)は割と書か
れていますけども、あとはさらっと書かれており、力の入れ方に差があるように見えます。例えば「(6)
災害対策など安全・安心への意識の高まり」を見ますと上3行で雨や地震が増えて大変になってき
ましたというだけで終わっています。大変になってきましたというだけではなく、例えばそこに自助や
共助の取組として、災害ボランティアに参加をすとか、家庭やコミュニティでの防災の取組とか、あ
るいは学校での防災の取り組みとか、企業とか福祉施設の事業所地域ボランティアの作成とかを
記載して、公助の取り組みと共に自助共助の取り組みも進んでいる。それを受けて尼崎ではこうい

うことをやっている」と記載するとわかりやすいと感じました。また、「(7)新型コロナウイルス感染症がもたらした新たな日常」も上 4 行に書いているのはその通りですが、総合計画の長いスパンを考えるともう少し踏み込めないのかなと思います。例えば生き方の価値観が変わるとか、ワークライフバランスとかはよく言われていますけど、そういうようなことももう少し書けないかなと思いました。それから P24「4. まちづくりの方向性」に「関係人口の創出」ということが書かれています。これもその通りですが、関係人口を増やすうえで尼崎というまちに愛着を持っていただくという点が大事だと思いますので、そういう言葉を入れてはどうかと思いました。

(会長)

ありがとうございます。具体的なことも含めてご提案していただきましたので、これは事務局の方で預からせていただいてご検討いただくという事にしていただきたいと思います。

(委員)

P30、31「3. まちづくりの総合指標」ですが、【視点①】「ファミリー世帯の転出超過数」というものが書かれています。その他のところも「ファミリー世帯」という言葉がかなり使われています。「ファミリー世帯」の具体的な定義みたいなようなものは用語集で出てくるかとは思いますが、用語集レベルではなくて【視点①】で挙げているので、「ファミリー世帯」とは一体何を指すのかという説明を入れる方がいいだろうと思います。おそらく子育てファミリー世帯の 18 歳未満と同居している世帯かなと思いますが、そこを具体的にする方が施策の推進から考えてもいいのかなと思いますので一度検討を宜しくお願いします。

(委員)

先ほど少しやり取りがありました P43 の「施策 2 人権尊重・多文化共生」の代表指標の『人権講座受講前よりも「人権への関心がさらに高まった」と回答した参加者の割合』というのは、私も少し違和感があるところです。そもそも受講するという事で高い関心がある人達が集まっている可能性があるわけですし、同じ人が何回も行ってもこの中では見えないという形になってしまいます。ですので、例えば参加人数という指標も考えられるのではないかと思います。ただ人数を指標とすると動員が進むということであれば、それは本意ではないので何か適当なものがないか考えていました。現在市民意識調査でとっている指標に「自分と異なる人も受け入れたい」と答えた人の割合が 80.6 ですので、これを 85 にするなり 90 にするという方が良いのかなと思っておりました。

あとは細かい話で P45「施策 3 学校教育」(2)個に寄り添った教育の推進「①個の尊厳や人権の尊重のための他人の気持ちがわかる児童生徒の育成や道德教育の充実」と書いてあります。「子の尊厳や人権尊重」の類には、思いやりを育むということも必要ですが、思いやりがあろうとなかろうと保障されるものがあるのが「個の人権の尊重」であると考えます。この書きぶりだと他人の気持ち分かる児童生徒の育成が道德教育の充実という、話が小さくされてしまっているなと思いますので、「個の尊厳や人権尊重」の為に問題を解決する児童生徒の育成や道德教育の充実くらいに、狭めすぎない程度に表現を検討いただければ幸いです。

(委員)

二つ述べたいと思います。一つ目は冒頭にデザインの話がありましたが、総合計画は基本的に市民に読んでいただきたいという認識だと思いますが、ここに行政の方々が達成する目標や中身

が書き込まれているところと、市民にメッセージとして伝えたいところが混ざっているのがもったいないということが先ほど委員のご指摘だったかと思えます。そういう意味では市民に伝えたい一番のメッセージはやはり“ひと咲き まち咲き あまがさき”だと思います。数値目標など細かい内容は読んでくださる方々には当然読んでいただきたいですが、みんながそれを読むのは難しいので、デザインなり順番なり要約版の作成はすごく大事なところだと思ったのが一点です。もう一つは、今後考えていただきたいというコメントですが、委員のご意見にもありましたが、評価指標の考え方が結構難しいと思えます。例えば講座に参加している人が「より良くなった」というのは、上位層を拾っていることになり、また、市民意識調査に答えてくださる方というのも一定程度まちづくりにコミットしようという意識があったり、ある程度答える余裕があるから書いているという言い方もできるわけで、そうすると上積みをした形にどうしてもなりがちです。この市民意識調査で拾っているものは数値的にどうであるかということも凄く大事ですが、これで何を拾っているかということに自覚的であるべきだと思います。いつも評価は数値になるものだけを評価する傾向にあります。子育てや貧困層で困っている方に向けてとかでいうと、市の職員が現場に出ていて数値にはならないけど良い取組があったとか、逆にここは無理だったなど数値にならない指標、数値にならないものを丁寧に拾ってどのように変化しているのかを積極的にとりにいくことも大事だと思います。計画ができた後この先 5 年 10 年で皆さんが施策を推進する中で代表的な数値指標は大事ですが、これをクリアすることだけが目標ではなく、やはりこの数値に表れないところの変化をどのように拾っていくのかを心掛けるということも含めて最終的にこれが完成版になっていけばいいのではないかなと思えました。

(委員)

P58「施策 10 消防・防災」についてですが、今年になって、南西諸島や東北を中心に大きな規模の地震が発生していて、いつ我々がそういった自然災害に直面するかわからないなかで、市民一人ひとりの防災意識を高めることが重要です。その意味において、もっと市民の意識を高めるにはやはり「施策 10」ではなくてせめて「施策 5」くらいにもっていかないといけないと思えます。何も知らない方がこの総合計画を読み始めると、おそらく最初の方は見るかと思えますが、後の方はあまり見ないのではないかという気もしています。それと施策 10 の施策目標がありますが、まずは市民一人一人がいかに防災に対して日ごろから備えをしているかが大切だと思うので、例えば台風や地震にあって電気ガス水道が止まっても3、4日は凌げる食料、水、防災グッズを持っているとか、そういうところをもう少し意識すべきではなかったのかなと思っています。それと最後に P59 に代表指標が書かれていますが、ここで今更ですが、どのくらいの市民の方が日ごろから食料、水、防災グッズなどの備えをしているのかを指標にすれば良かったと思ったりしています。

(委員)

P60「施策 11 地域経済・雇用就労」の「主な課題」のところで「◆製造業などの支援」が記載されていますが、「施策の展開方向」のところで、製造業について触れているところが(1)②「新製品の開発やIoT化や導入等の支援など、製造業等のイノベーションの促進支援」だけですが、この部分は、色んな受け止め方があると思うんですけど、中小企業の製造業の場合、ついていけないところがある中で、また、尼崎の工業財産である中で、守っていかないといけないものなのかなというところをもう少し表現していただけたら嬉しいなと思えます。同じように P15「(5)産業構造・労働環境の変化」も一般的な労働環境の変化や働き方の変化、ジェンダーのことも含める中で「国籍、年齢、性別、障害の有無」には触れられていますが、尼崎の産業構造の重きをなしている製造業について触れ

ているところが少ないのかなというのを感じました。あとは産業のところではないのですが、P58、59「施策 10 消防・防災」のところで、「主な課題」でテーマとなっていることは「3 施策の展開方向」でかなり述べられているのですが、指標を見た時に「I 尼崎市の消防・防災体制に対して安心感を持っている市民の割合」という意識調査のところですので、どう周知するのが重要だと思いました。施策自体は展開されていたとしてもそれが住民に対して公開周知されていないと、ここの指標は変化が薄くなると感じましたので、そこも少し謳われた方がいいと感じました。

(会長)

尼崎における製造業の在りようといいますか、これはなかなか重要なポイントですけど、この総合計画の中でどこまで書けるかという事もあろうかと思えます。これも事務局の方で再度お考えいただければと思います。

(委員)

P31「【視点②】市民参画指数」の基準値が 40.6 と記載があり、目標値が 49.8 とありますが、これが何の数字かがわかりません。市民参画指数というのは何か係数を掛けて導いているのかなと思いますが、少し余白もあるので指標の説明をどこかに入れていただけるといいかなと思っております。

(会長)

編集上の事だと思えますので事務局の方でわかりやすく表現していただければと思います。

(委員)

P14「(2)多様化するコミュニティの形態と地域におけるつながりの希薄化」っていうところの、後半のところ、オンラインのつながりが分断を促進する可能性があるというあまり良くないというニュアンスで書かれていますが、もちろんそればかりだと良くないですが、うまく使っていける部分もあると私個人としては思います。それはやはりオンラインがだめで、できるだけ対面の繋がりでやっていきたいというのをアピールしたいからこういう文章なのかどうかというのを教えていただきたいというのが一点です。もう一点が単なる意見ですが、「総合指標の目標値の考え方」を聞いていて、基本的には私は案 1 で良いのかなと思いました。この時におそらく案 2 で書かれているものが低い層のところをもう少し上げていきたいというところで、おそらく P18「■実態とイメージのギャップの解消へ」で、ファミリー世帯が転出していくなかで、出ていこうとしている人達のここの意識を変えたい、結果それが数字に出てきてほしいというところで、総合指標ではそういう細かいところまでは書けないとは思いますが、実際にターゲットにしている人達のパーセンテージが現に低くてそこを上げていきたいという意識を持って設定できればいいと思いました。「どちらかといえば良くなかった」も現実そういった世帯の人達の割合が高いので、そこが減っていくということになるのは実質この年齢層の人達の評価が高まっているということにもなるのかなとグラフを見ていて思いました。

(事務局)

オンラインのコミュニティは簡単に色んな人と繋がれるという部分では非常にメリットがあると考えています。一方で、自分の似たような思考の方ばかりが集まってというところのリスクがありメリットとデメリットの両方の側面があることを表現しています。

(委員)

コミュニティ間の分断とありますが、コミュニティというのは地域コミュニティということでしょうか、それとも嗜好的な好きなもの集まっているコミュニティ間ということでしょうか。

(事務局)

ここで表現しているのは地域コミュニティというよりは、オンラインの中で繋がっているコミュニティについて記載しております。

(会長)

ご指摘のように、コミュニティのデジタル化の否定的な側面を強調されているようなイメージはありますので、ご指摘も踏まえて事務局の方で文言をお考えいただければと思います。

(委員)

P36「主要取組項目③ 脱炭素・経済活性」の指標で「尼崎市内総生産」があって、基準値・目標値が書かれていますが「GDP 成長率を上回る増」というのは、意味合いが分からないというのが1点目です。また、意見としては先ほども出ていましたが、P45「施策 3 学校教育」の代表指標で「全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国との比較」でやはり目標値が平均以上というよりはもう少し野心的な目標を掲げるべきだと思います。それともう一つは P47「施策 4 子ども・子育て支援」の指標で「子育てしやすいまちだと感じる市民の割合」は市民意識調査の全体の割合で見っていますが、子育て世代の 25～44 歳くらいの方がどう思っているのかというところがポイントだと思います。極端な話で言うと 60 代 70 代の方が子育てしやすいのかという意見というのはあまり本質をつくものとはならないのではないかと思います。

(事務局)

「主要取組項目③ 脱炭素・経済活性」の代表指標の「尼崎市内総生産」ですが、市内総生産の成長率(前年度との比較)と国の GDP の成長率を比較した中で、市内総生産が GDP の成長率を上回っているかどうかというような観点で設定しています。GDP の成長率に比べて市の方がより成長しているということが市のこれまでの取組によって何か成果があったのではないかとというような視点で見るとどうかという観点で設定しています。

(委員)

それでは「国の」と入れていただいた方がわかりやすいかもしれません。あとは先ほどの市民意識の割合とかがそこをどこの層にするかという事です。

(会長)

この辺り委員からもご指摘いただいておりますので事務局の方で検討いただければと思います。

(委員)

P29、74 に「PDCA サイクル」が出てきていますが、これは統一した方が良いと思いました。また、P74 の【計画期間 PDCA】と【単年度 PDCA】は上下の順番が逆なのかなと思いました。説明している順番で言うと一番初めに単年度の説明をしていて、その次が計画期間という流れになっているの

でこの表自体も上下の順番が逆なのかなと思います。さらに、順番が DCAP になっているので P が意識できるように前年度の計画のところに薄っすらでもいいので P を混ぜておくと良いのかなと思いながら見ておりました。P28「2. 分野ごとの力を最大化し、その連携を意識したまちづくり」で「、」が入っているのが無かったので見出しとして点は使わないというようなルールであるなら、その点は削除してもいいのかなと思いました。

(会長)

編集上の課題ということで再度事務局の方でお願いしたいと思います。

(委員)

先ほど意見もありましたが、コミュニティのデジタル化の記載に違和感がありますので、ぜひこの部分は再検討していただきたいと思います。あと代表指標は皆さんの意見を聞いていると難しいのですが、P53 のところで「認知症サポーターの数」で令和 3 年が 23,297 人で令和 9 年が 45,507 人となっているが、これはどうしてこういう数字が出てきているのかなと思います。色んな所の総合計画を見ますと必ず高齢者支援のところと同じように出てくるのですが、これはどういう形で数字が出てきたのでしょうか。

(事務局)

認知症サポーターの数の目標値の考え方ですが、国が認知症サポーターを人口の 10 パーセントを目指していくという方針を立てており、市としても同様の考え方で令和 9 年度の人口の 10 パーセントを目標値としたところ です。

(委員)

私も認知症サポーターの数が気になっていました。人口 46 万人の都市で 4 万 5 千人というのは目標が大きすぎるのではないかというような思いがありまして、ここが適正な数字なのかどうかという思いがありました。

(委員)

P60 の「施策 11 地域経済・雇用就労」の「主な課題」のなかの「市内での事業継続の支援」の部分で「災害等による事業中断や廃業を防ぐ、早急な支援を進めることが課題」ということで、事業継続というのが BCP なのかそれとも事業を存続させていく分野で、もしそういうことであるのであれば災害等とは書いていますが、ここに決めつけてしまうのはどうなのかなと感じており、表現を変えていただいたほうが良いのかなと思っています。もう一点は前回もお話ししましたが、これだけ作り込んで計画をしっかり立てている中で、やはり P74 の進捗のところをしっかりと進めていく形が見えるようにしていただいた方が良いのかなと思っています。市民の方がこの施策はこのようにやりますよということを実感いただくことが指標にも反映して市民が尼崎のまちがやりたいまちだということを実感できるのではないかなというように思っています。

(会長)

P74 は、先ほどからもご指摘がありますので表現やデザインも再検討していただきたいと思いますが、一点目で BCP にかかる様なポイントについてのご指摘ですけど、事務局いかがでしょうか。

(事務局)

委員ご指摘の通りこちらは災害に限らず事業継続の支援をやっていきたいと考えておりますので、ここは災害等という形で読んでいたつもりですが、表現については再度検討させていただきたいと思っております。

(委員)

P30「尼崎市に住んで良かった」と思う市民の割合は、すでに9割以上の方がポジティブな受け止めをされているというところがあって、こういう調査は積み重ねがありますので、数字を比較するというのは、2、3ポイントの積み上げというのがどれぐらいの意味があるのだろうかというのが少し思うところがあって、案1でも案2でも、目標値として数値を置くというのは非常にわかりやすくいいのかなと思うのですが、例えば一番ネガティブな受け取りの「良くなかった」という回答をされている方を無くす。SDGsでも「誰一人取り残さない」というのが今よく言われていますので、そういう意味でも最もネガティブな回答を選ぶ人をゼロにするという目標を掲げるというのも一つの方向性としてありなのかなというのが少し思っているところです。

(事務局)

指標の目標値の考え方ですが、アンケートということで理念的に100%を目標値にしている指標もあるのですが、現実的に全ての方に100%「住んで良かった」と思ってもらえるというのはなかなか現実的に難しいと考えております。その中で10年間を通じて少しでも「良かった」と感じている方を増やしていくというのが今の考え方です。事務局としては案1の目標値の設定の考え方をとっていきたいと思います。

(委員)

目標を立てるということであればこういう形になるというのは理解できると思いますが、それはやむを得ないと思います。もっともネガティブな回答を選ぶというのはかなりの不満を持っている方が回答していると思いますのでここを無くして、3つ目の「どちらかと言えば良くなかった」というのを無くすというのはなかなか難しいかと思いますが、「良くなかった」という人を無くすという目標を一つ持ってもいいのかなとも思います。ただそれを目標に書くのはどうなのかなと思いますのでそれについては理解をします。

(会長)

当初の設定は「尼崎にこれからも住みたいか」だったと思いますが、少し時代に合わないのではないかとということで、この指標に変更したかと思えます。しかし、これがとんでもなく高い数値で、「良かった」という方が9割以上という数値になっているのも、住んでいる方の思いがよくわかって良いのですが、委員ご指摘の通りこの中で「良くなかった」と評価されている方がどういうことなのか知りたいところではあります。また、この方の思いをどうやって、せめて「どちらかと言えば良かった」に変えたいというのは確かに思いとしてはあります。

(委員)

P28「2. 分野ごとの力を最大化し、その連携を意識したまちづくり」のこの「最大化し」という言葉が気になっていまして、「最大化する」という意味合いが下の方の文章でも私の中では入って来ないで

す。これは「力を発揮し」というような言葉の方がフィットするのではないかと感じています。あとは皆様が言われていた各施策の施策目標の文章が簡単であるところと簡単で無いところがあるというのは確かにそう思います。

(事務局)

表現は一度考えさせていただきますが、ここで表現したかったのは、施策それぞれの力を高めつつ、それを個別に動かすのではなく、連携させていくというところをごさいますて、ここでは「最大化」するために何をしていくのかというのは、しっかりと PDCA を回していくというところで、この表現をしているのですが、いずれにしても表現については一度検討させていただきます。

(会長)

それに加えて委員が後段でご指摘のように、表現をできる限り圧縮した形で伝えようとする意図はわかりますが、それであるがゆえにわかりにくくなっているというのも一方であろうかと思っておりますので、この辺りはぜひとも市民の皆様によりわかりやすく表現するというのもう一度文章全体再点検していただければと思います。

(部会長)

計画はかなり完成度が高まってきているので、後は微修正かなと思っています。一点だけ、行政計画の構成というのは何かフォーマットがあって、「社会潮流」とか「現状認識」とかがあって、真ん中の方に「理念」が出てくるということですが、市民委員側から見た時にどこが柱なのかよくわからないという言い方をされることがあります。そこは最初に語っていかないといけないものなのかどうかというのは、今後の行政計画づくりの時は改めて編集の時に考えていただきたいなと思っております。「社会潮流」や「現状認識」は大げさに言うと参考資料で読みたい人にしっかり読んでもらってもいいのかなという捉え方もできると思います。今後、行政計画を作る時はいつも市民委員さんからは同じような指摘がございますので、言いたいことが的確に分かるような編集があってもいいのかなと思います。あとは委員からご指摘いただきましたけど、P22、23 の”ひと咲き まち咲き あまがさき”が一番読んでほしいわけで、そうすると今の状態で言うと、ここに文章がたくさん詰まっています。絵もないしグラフもないし、絵は若干下の方にありますけど、インパクトとしては今のところは弱いかなと思いますので、ここを上手くデザインしていただいて、前から読みなさいということではなくてパラパラとめくる人もいますかと思っておりますのでパラパラとめくった時におっと思わせるようにP22、23 を頑張っていたことが先ほどのご指摘を受けられるのではないかと思いますので、また工夫をお願いできればと思います。

(会長)

皆さん一回ずつご発言いただきましたけども、次の議題に入る前に発言漏れ等はございませんでしょうか。そうしましたら今日ご意見いただきましたが、これにつきまして事務局の方で検討していただきまして、次回答申案の形として皆さんに見ていただくということにさせていただきたいと思っております。事務局も思いがあって書いているところがありまして、ご指摘の通りが変わっていないこともあろうかと思っておりますが、この辺りはご容赦いただいて答申案を見ていただければと思います。

(事務局)

色々ご指摘いただきましてありがとうございました。会長からもありましたが、これまで議論の積み上げがかなりあるなかで、全ての意見を反映していくというのはなかなか難しいと思っています。ただ、デザイン等でカバーできる部分もあろうかと思いますので、その辺りについてはデザイン業者を使う中で見やすくわかりやすくということは最終冊子にする段階で対応させていただきたいと思っております。それと市民向けの周知ツールということで総合計画読本のような物を作っていくことも考えておりますので、手に取っていただき、わかりやすくなるようなものを作っていくということで併せて皆さんに周知等をしていきたいと考えております。

その他案件といたしまして、事務局の方から改めて今後のスケジュールをご報告させていただきたいと思っております。冒頭ロードマップでもご説明をさせていただきましたが、4月の下旬11日に市議会で総合計画等協議会がございます。そちらの方で本日ご説明させていただきましたパブコメでありますとか、そういったところの意見の修正や意見交換をさせていただきたいと思っております。その後、4月25、26日で日程調整させていただいております審議会の総会で答申の案をご覧いただきまして、そこで事務局としては答申として確定していくような流れで進めていければと思っております。それまでの間に本日いただいた意見を踏まえて、計画の方を再度確認いたしまして、ブラッシュアップしていきたいと考えております。

(会長)

そうしましたら会議をそろそろ終了とさせていただきたいと思っております。次回の総会4月下旬ということになっております。予定では次回が計画策定にかかる最後の総会ということで今回皆様からいただきましたご意見を踏まえ答申案が提示されて見ていただくということになろうかと思っております。最終段階ではございますが委員の皆様には引き続きご指導いただければと思っております。以上で第5回総合計画審議会総会閉会とさせていただきます。皆さん議論ご協力ありがとうございました。また次回も宜しくお願い致します。

以 上